



京都カロム協会会長

高山大輔

TAKAYAMA DAISUKE

京TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 124th person

【プロフィール】1975年京都生まれ、京都育ち。3年前に「カロム」と出会い、その年に初めて出場した全国大会ではベスト8まで進出。2004年5月、「cafe SARASA かもがわ」オープン。「だいちゃん」の愛称で親しまれるオーナーでもある

肩書きありきで飛び込んだ世界 野望は「カロム」全国大会制覇



中央には、将棋で言えば王将、ビリヤードなら9ボール的存在の「ジャック」。それを取り囲む赤と緑(各12個)のバック。「ストライカー」でバックを狙い打つ。必要なのはたったこれだけ。この盤は聖地・彦根で購入



混雑していなければ、営業時間内に自由にカロムを楽しむこともできる。とはいえ、まずはだいちゃんの手解きを受けるのが得策。店内には友人の手作りボードもあるが、やはり滑り具合が彦根産には敵わないのだとか



「さらさ富小路」より暖簾分け。内装からメニュー表、器に至るまで、そのほとんどを友人・知人が手伝ってくれたという。最近、凝り始めたのはコーヒーマシンの自家焙煎。「コーヒーマシ」470円、ランチは780円～

「カロム」という盤上ゲームを知る人は、なかなか希少だろう。なぜならこのゲーム、発祥地である彦根からいまだ抜け出ていないから。しかし、「そのローカルさこそが魅力のひとつ」と、京都カロム協会会長・高山氏。会長職についているとはいえ、唯一の会員でもあるというから、「会員求ム」の声も切実だ。

そんなマイナーゲームと高山氏の出会いは3年前。友人宅で使込まれたボードを発見したときだった。どうやら、その友人の親が彦根出身だったらしい。「彦根には当たり前にあるんですよ。オモチャ屋や家具屋さんには必ずあるし、学校や塾、老人ホームでもやってる。だから、全国大会に出場してベスト8まで勝ち進んだときは、『どこの学校や?』ってやたら聞かれて(笑)。「京都なんです』って言ったら、『なんで京都のもんが?』という目で見られてね」と言うから、そのローカルぶりが伺えるというもの。去年はカフェオープンで多忙を極め、出場を見送り。今年は残念ながらベスト16で敗退してしまった。「僕らの対戦相手が優勝者。ちょっとした運で負けてしまったけど、かなり優勝してたんで、実質僕らが優勝やで! なんて(笑)」。対戦者は若くて小3、上はご老人までとさまざま。「子供から大人まで同じフィールドで戦えるのも面白さ」。毎年400人以上がエントリーする全国大会に出ようと思ったのは「全国何位っていいなあって」。『友だちが〇〇でベスト4まで進んで〜』とか言い合うのを聞いて、肩書きを欲したのがきっかけだということから単純明快だ。

「ジャマイカのボブスレーみたいなもんでね。やってる人数が少なかったら上に行けるでしょ」。とは言え、肩書きだけで満足してない高山氏。実は、京都カロム協会を公式に立ち上げ、7月からは店内で月1回のカロム教室も開講。「自己満足で始めたら意外と集まったし、もっとカロムを知ってもらいたいと思って」と、普及に努める熱意は会長然たるモノ。ゆくゆくは出場者の8割を彦根人が占める全国大会に誇りこみ、アウェイのプレッシャーに負けず、上位まで食い込む京都プレーヤーを育てたい。それが、いま一番の狙いだ。一度このゲームをやってみれば、ほぼ100%の確率で魅了されることは、間違いない。我こそは! と思う諸君、ぜひ一度勝負してみてくださいはいかがか。

information

カロム教室

■日時: 毎月第4水曜日19:30~
定員: 5名
場所: cafe SARASA かもがわ
参加費: 1000円(1ドリンク付)
申込み・問い合わせ: 2090・1905・4418(京都カロム協会 高山)
1075・211・4757(SARASAかもがわ)

cafe SARASA かもがわ

■京都市上京区西三本木通荒神口下上生洲町229-1
1075・211・4757
X12:00~23:30/木休
<http://www.cafe-kamogawa.com/>